事前アンケート（案）

≪導入≫

本研修では、ライブ配信での事例発表、事例をテーマとしたパネルディスカッションを予定しております。

受講者の皆様には、ライブ配信講義までに事前講義動画を御覧いただいた上で、この事前アンケートを御活用いただき、「自分だったらどうするか」「実際に多職種で ACP を実践する時にはどういうことに注意しようか」等、ACP に対する考え方を深めていただき、より実りある研修にしていただければと思います。

≪各事例概要≫

【事例１：入退院を繰り返す方】

戦争で夫を亡くし、自営業で息子を育てる。息子の独立後一人暮らし。60 歳からは親族の家業や社員寮の管理などを任され、一人暮らしを続け、85 歳から、息子家族と同居。習い事にボランティアに、活動的に過ごしていた。

94 歳頃から徐々に全身状態が落ち、在宅医療や介護を必要とし、歳相応の認知症はあり、口数も少なくなっていたが、意思疎通は十分にできる状態。骨折や熱発などに見舞われるも初期から関わった在宅医や訪問看護師が継続して関りながら在宅生活を継続している。

本人は自宅での生活を希望しており、家族は自宅での看取りについてひとまず同意している様子である。

【事例２：認知症の方】

50 歳を過ぎる頃にパートに出た程度で、その他は夫の左官業で生計を立て、専業主婦をする。自宅での手芸や料理が趣味であった。75 歳までボランティアで特養のシーツ交換などを行っていた。友人も多く訪問客もあり、おしゃべりや出かけたりすることを楽しんでいた。

大きな病歴はなかったが、75 歳頃から物忘れ出現。夫の支援を受けながら生活していたが、翌年夫が他界し、その後物忘れも進行。その翌年には娘の通院同行でなんとか専門医を受診し、アルツハイマー型認知症と診断を受ける。同時に介護保険申請し、「要介護 1」となるも本人の希望なくサービスは未利用。

77 歳頃に、娘から相談があり、地域包括支援センター担当が訪問するも本人のサービスを拒否により、支援につながらなかった経緯がある。

翌年、娘から再度相談があり、本人に介護保険サービスや地域資源の利用を進め、デイサービスと地域交流センターへの参加につながる。バスを１回乗り換えて参加するが、時に道に迷いながら出発時に案内の電話をするなどの支援で参加できていた。

79 歳ごろより、自宅出発の声掛けをするが、一人でバス利用ができなくなり、参加が難しくなったが、見守りボランティアの送迎で月１回の参加を継続している状況。

現在は 80 歳となり、週 5 日デイサービス利用、週末は娘が自宅へ通い支援している状況。

≪設問≫

（１）本人の現状を踏まえて、ACP を実践する上での課題はなにか

（２）その課題に対して、どのような対応方法が考えられるか（代替案や折衷案等）

（３）今後 ACP を進めていく上で誰と何を話し合う必要があるか

（４）わたしの思い手帳書き込み編をチームで共有するために何を追記したほうがよいか

（５）この事例で ACP を実践する時にどのような疑問や不安を感じるか